

保健体育科学習指導案

学 級 : 2 年 3 組 3 2 人
(男子 1 5 人 女子 1 7 人)
場 所 : 体 育 館
指 導 者 : 教 諭 永 野 麻 理
教 諭 園 田 耕 一

1 単元名 「器械運動 (跳び箱運動)」

2 単元について

(1) 教材観

- ア 器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- イ 条件を変えた技や発展技などの難易度の高い技に挑戦したり、学習した基本となる技の出来映えを高めたりする達成型の運動である。
- ウ 自分の能力に適した課題に挑み、その課題を達成することで、器械運動の楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- エ 跳躍、回転、支持などの日常で経験できない多彩な運動を行うことによって、柔軟性・瞬発力・敏捷性・巧み性・体力を養うことができる運動である。
- オ 補助したり相互評価をしたりすることで、協力する態度を養い、安全に対する認識などを高めることができるとともに、物事に挑戦する勇気、決断力などを養うことができる運動である。
- カ 器械・器具に対して恐怖心をもったり、失敗して痛い思いをしたり、恥ずかしい思いをしたりして気持ちが消極的になると楽しさを感じない運動である。

(2) 生徒観

生徒は、小中学校時に器械運動を経験している。授業を進めるにあたって事前にアンケートを実施した。

(回答数 27 人, 5 人未実施)

1	器械運動は好きですか。(はい 12 人 いいえ 15 人)	
2	1 の理由	
	〈好きな理由〉	〈嫌いな理由〉
	・ 楽しい (9 人)	・ 苦手 (6 人)
	・ どちらかという得意だから (1 人)	・ 怖い (2 人)
	・ できるようになると自信がつくから (1 人)	・ できない (4 人)
	・ できない技ができるようになったから (1 人)	・ 未回答 (3 人)
3	跳び箱運動のどのような技ができますか。(複数回答)	
	・ 開脚跳び (21 人)	・ 頭はね跳び (3 人)
	・ かかえ込み跳び (3 人)	・ 台上前転 (2 人)

4 飛び箱運動と聞いてどのようなイメージをもちますか。(複数回答)			
・ 跳ぶ	(10人)	・ 楽しそう	(2人)
・ 怖い, 不安	(6人)	・ できると気持ちいい	(1人)
・ 難しそう	(2人)		
5 次の技をどのように行うかイメージ・言葉で表すことができますか。			
(1) 開脚跳び	イメージできない (2人)	イメージできるが説明できない	(16人)
	イメージも説明もできる(9人)		
(2) かかえ込み跳び	イメージできない (2人)	イメージできるが説明できない	(16人)
	イメージも説明もできる(9人)		
(3) 台上前転	イメージできない (3人)	イメージできるが説明できない	(15人)
	イメージも説明もできる(9人)		
(4) 前方倒立回転跳び	イメージできない (7人)	イメージできるが説明できない	(15人)
	イメージも説明もできる(5人)		

アンケート結果より、器械運動を嫌いと答える生徒が半数を超えている。その理由として、「苦手だから」「怖くてできないから」が挙げられた。

さらに、飛び箱運動の技について、どの技においても半数ほどの生徒は技のイメージはできるが、説明として、自分の言葉で技の行い方を説明することができないと答えている。このことは、各技へ挑戦した経験が少ないため、運動技能のポイントを理解しておらず、説明において必要な言葉がわからないことが原因だと考える。

これまでの授業において、「アドバイス学習」の機会を意図的に設定し、取り組ませてきた。これにより、アドバイスできる生徒が7割程度いる(紀要アンケートより)。しかし、「アドバイス学習」を充実させるためには、運動技能のポイントを理解し、他者へ表現できることが重要である。さらに、その技がよりよくできるようになることが重要である。

これらのことより、器械運動を好きになるためには、基本的には技が確実にできるようになることや条件を変えた技、発展技ができるようになることが重要である。そのために、運動技能のポイントを理解させ、「アドバイス学習」を通して自分の課題に気づき、それぞれの課題を解決するために取り組み方を選択し、繰り返し練習できるように工夫する必要がある。また、飛び箱運動への恐怖感を和らげるための器械・器具の準備や飛び箱の高さの調節などの場の設定を工夫する必要がある。

(3) 指導観

学習の流れは、導入で、体づくり運動やドリルタイム(反復練習)を組み入れる。具体的には、ペアでのストレッチやかえる跳び、補助倒立などの運動を行わせる。これらにより、お互いに交流する中で信頼関係を構築し、スムーズに主運動へつなげられるように指導していきたい。展開では、挑戦したい技に繰り返し取り組みませ、積極的に矯正的フィードバックをし、確実に習得させたい。終末では、学習カードを利用し、発問することで学習の反省・評価を行わせ、次時につなげさせたい。

学習課題の工夫においては、導入で、判断基準Bを基にした学習目標を設定し確認させる。展開では、教育用デジタル素材集等を活用し、運動技能のポイントを明確にさせたい。また、「アドバイス学習」を通して、自分や他者の課題に気づき、指摘したり助言したりすることができているか確認し、教師の関わり方を考慮し、状況に応じて指導する。

発問の工夫においては、導入で、学習目標を達成するために必要なことについてイメージさせる発問をする。展開では、学習目標を達成するための取り組み方を考えさせる発問をしたり、生徒の学習活動に積極

的に関わり、課題に応じた適切な取り組み方を選択しているか確認するための発問をしたりする。終末では、展開の学習活動を通して考えたことや気付いたことを振り返らせる発問をし、発表させ、本時の学習のまとめや次時の学習へ見通しをもたせる。

3 単元の指導目標

- 基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。 (技能)
- 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとすることや分担した役割を果たそうとすること、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (態度)
- 技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 (知識、思考・判断)

4 単元の指導計画

(1) 単元の評価規準

ア 運動への 関心・意欲・態度	イ 運動についての 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての 知識・理解
① 健康・安全に気を配り、積極的に跳び箱運動の学習に取り組もうとしている。 ② よい演技を認めようとしている。 ③ 仲間の学習を援助しようとしている。 ④ 分担した役割を果たそうとしている。	① 学習する技の合理的な動き方のポイントを見つけている。 ② 自分や他者の課題に気付き、指摘したり助言したりしている。 ③ 技の習得のために、課題に応じて適切に取り組み方を選択している。	① 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技ができる。	① 跳び箱運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ② 技の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。 ③ 跳び箱運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

(2) 単元の指導と評価の計画

時	指導内容	単元の評価規準
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ねらい I</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">器械運動の特性と単元の学習内容を理解し、見通しをもたせる。</div> 1 器械運動の特性や学習の流れを理解させる。 2 「アドバイス学習」の学び方を確認する。 3 スキルテストに取り組ませ、今もっている力を理解させる。 4 スムーズに主運動へつなげるための体づくり運動や基本的な技を身につけるためのドリルタイムについて理解させる。	ア-①

時	指導内容	単元の評価規準
2 ・ 3 ・ 4 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 (本時)	<p>ねらいⅡ</p> <p>自分の課題に応じて取り組み方を選択させ、基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技、発展技を行わせたりする。</p> <p>主に学習する技</p> <p>切り返し系：開脚跳び、かかえ込み跳び 屈身跳び 回転系：台上前転、頭はね跳び、前方倒立回転跳び</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体づくり運動やドリルタイムを積極的に行わせる。 2 スムーズに主運動へつなげるために、類似の運動を行わせる。 3 挑戦する技を自分の技能・体力の程度に応じて選択させる。 4 技ができるようになるために、練習を繰り返し行わせる。 5 基本的な技を滑らかに行わせたり、条件を変えた技、発展技を行わせたりする。 	<p>アー③</p> <p>アー④</p> <p>イー①</p> <p>イー②</p> <p>イー③</p> <p>エー①</p> <p>エー②</p>
9	<p>ねらいⅢ</p> <p>習得した技を発表させるとともに、技の出来映えをお互いに評価させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 習得した技を発表させる。 2 他者の演技を見て、よりよくできた技のポイントを見付け、評価させる。 	<p>アー②</p> <p>ウー①</p> <p>エー③</p>

5 本時の判断基準の設定（8／9）

評価規準	[運動についての思考・判断] ・ 自分や他者の課題に気付き、指摘したり助言したりしている。
評価の場面	・ 9時間構成の第8時における話合い活動や「アドバイス学習」
評価の対象	・ グループでの話合いや「アドバイス学習」時の発言内容及び観察
判断の要素	・ 運動技能のポイントの理解 ・ 課題に応じた取り組み方の選択

尺度	判断基準
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や他者の動き、学習資料などから課題に気付き、指摘したり、助言したりしている。 ・ 自分や他者の課題に応じた取り組み方を選択している。 <p>-----</p> <p>【予想される生徒の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱を跳び越せていないから、開脚跳びでは、勢いよく踏み切って、両手を前方へ着くといいよ。 ・ 勢いよく跳べていないから、切り返し系の技は、肩が手の上を通過するまでに突き放すといいよ。 ・ 頭はね跳びに挑戦するために、まずマットで頭はね起きの練習をしよう。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や他者の課題や選択した練習方法について、根拠をもって説明することができる。 ・ その他、B状況以上にあると認められるもの。

6 本時の実際（8／9）

(1) 単元名 「器械運動（跳び箱運動）」

(2) 学習目標

- 基本的な技を滑らかに行うこと，条件を変えた技や発展技ができる楽しさや喜びを味わい，その技がよりよくできるようにする。 (技能)
- 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに，よい演技を認めようとすることや分担した役割を果たそうとすること，健康・安全に気を配ることができるようにする。 (態度)
- 技の名称や行い方を理解し，自分の課題に応じた取り組み方を選択することができるようにする。 (知識，思考・判断)

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

ア 学習課題の工夫

- (ア) 判断基準Bを基にした学習目標を設定し確認させ，「アドバイス学習」を通して，運動技能のポイントを明確にし，自分や他者の課題に気付き指摘したり助言したりすることができているか確認する。

イ 発問の工夫

「開かれた発問」の機能的分類から以下の三つに重点をおいて発問をする。

- (イ) 「注目・発見」（新しい視野と気付きをもたらす発問）

導入では，学習目標を達成するために必要なことを考えさせたり，達成するための取り組み方を考えさせたりする発問をする。

- (イ) 「修正・訂正」（自分の課題に気付かせ，より正しい考えに近づけるための発問）

展開では，自分の課題に応じた適切な取り組み方を選択しているか確認を行うための発問をする。

- (イ) 「深化・拡充」（さらにできるようになるためにはどうしたらよいかを考えさせる発問）

終末では，展開の学習活動を通して考えたことや気付いたことを発表させ，授業のねらいに迫らせる発問をする。

(4) 授業の展開

☐ : 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	2分	一斉	1 学習の準備や安全点検をする。	<ul style="list-style-type: none"> 器械・器具や練習場所の安全確認を行う。 出欠確認、健康状態の把握、見学者への指示をする。 	
	13分	個人・ペア	2 整列，あいさつ，健康観察をする。		
導入	5分	一斉	3 準備運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ペアでストレッチ 4 類似の運動をする（ドリルタイムⅠ）。 （首倒立からのゆりかごジャンプ，前転，かえる跳び，馬跳び，補助倒立）	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸をさせながら，積極的に行わせる。 類似の運動が主運動につながることを意識させる。 	<p>☐ 視点イー(ア)</p> <p>学習のねらいを明確にする発問をする。</p>
	5分	一斉	5 学習目標，学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> お互いに教え合いながら，基本的な技を滑らかにし，条件を変えた技，発展技を身に付けよう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 〈反応例〉 <ul style="list-style-type: none"> 正しい動きを理解することが必要。 自分に何ができていないか知る必要がある。 繰り返し練習することが必要。 基本的な技を身に付けることが必要。 </div>		
展開	15分	グループ	6 技の練習をする（ドリルタイムⅡ）。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題に応じ取り組み方を選択し，繰り返し練習する。 自分の演技で見て欲しいポイントを伝えて演技を行う。 相手の演技の出来映えを理由をつけて説明する。 運動技能のポイントの修正や課題に応じた取り組み方の助言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の演技を見て，アドバイスしているか確認する。 お互いに補助をするなど協力して，行っているか確認する。 	<p>☐ 視点ア</p> <p>「アドバイス学習」を通じて，自分や他者の課題に気付き指摘したり助言したりすることができるか確認をする。</p> <p>☐ 視点イー(イ)</p> <p>自分の課題に応じた適切な取り組み方を行っているか確認する発問をする。</p>
	7分		7 チャレンジタイムをする。 発表会に向けて，練習した技を発表し，お互いに評価する。		

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
終末	8分	一斉	<p>8 整理運動をする。</p> <p>9 学習の評価・反省をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈反応例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勢いよく踏み切って、両手を前方へ着くように取り組みました。 ・ 上手に跳び越えるために、肩が手の上を通過するまでに思いっきり突き放すようにしました。 ・ 頭はね跳びに挑戦するために、まずマットで頭はね起きの練習をしました。 </div> <p>10 次時の学習内容について確認する。</p> <p>11 健康観察、あいさつ、後始末をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体調に変化がないか意識させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「発展技を身に付ける」ために、練習していく上で、どのようなことが必要でしたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の学習の見通しを持たせる。 ・ 健康状態を把握し、後始末を指示して、確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点イ-(ウ)</div> <p>学習目標の達成に向けて、気付いた部分や考えたことを発表させる。</p>

(5) 検証の方法

ア 学習課題の工夫

自分や他者の課題に気付き、指摘したり、助言したりしているか「アドバイス学習」における観察から確認する。

イ 発問の工夫

(ア) 「注目・発見」(新しい視野と気づきをもたらす発問)

導入で、学習目標を達成するために必要なことを考えたり、達成するための取り組み方を考えたりしているか、観察から確認する。

(イ) 「修正・訂正」(自分の課題に気付かせ、より正しい考えに近づけるための発問)

展開で、自分の課題に応じた適切な取り組み方を選択しているか「アドバイス学習」における発言から確認する。

(ウ) 「深化・拡充」(さらにできるようになるためにはどうしたらよいかを考えさせる発問)

終末では、展開の学習活動を通して考えたことや気付いたことについて、学習カードの内容から確認する。